

# PALATHETIC<sup>®</sup> SPECIFICATIONS



## 1 Head

タカミネの登場以来、ヘッドに大きく横に入るロゴタイプがエレアコのシンボルの様に各社に見られるようになりました。以来、転写マークと呼ばれるシールか、貝以外のものが使用される事の無かったヘッドに、デビュー当時は彫刻で入り、現在はゴールドとシルバーのアルミプレード、もしくは貝がモデルによって使い分けられており、ステージでスポットを浴びた際は素晴らしい輝きを発します。

## 2 Machine Heads



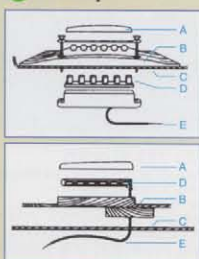
ギターという楽器にとって糸巻きは非常に重要なものです。ここにもタカミネの、楽器に対するポリシーが息づいています。

## 3 Control

多くのプレイヤーとの間でテストを繰り返し、考案されたスライドタイプのコントロールも、今ではエレアコの主流。タカミネではNPTの全機種にアキュラコーステックアンプを搭載し、PTの全機種にエキサイターコントロールを採用。より、ナチュラルで幅広いコントロールが可能となりました。



## 4 Pickup



①サドル ②ブリッジ ③トップ  
④バラスティックリスタル  
⑤ピックアップワイヤー

システムの心臓部バラスティックリスタルがここに収納されています。水晶というのは時計でもご存じのとおり、電流を与えると極めて正確な振動を起こす性質を持っています。その性質を逆に利用したのがバラスティックリスタルです。

図の①をご覧ください。各弦の真下に6コの集音部バラスティックリスタルがここに設けられています。このため音のバランスと分離に優れ、他の追従を許さぬ音色を生み出すのです。又、この方式だからこそ12弦からクラシックギターに到るまでをアンプリファイズする事に成功し、ステレオシステムも可能にしたのです。

## 5 Battery



電池は006P(9V)を使用。プラグをジャックに差し込んだ状態でONになります。プラグをジャックに差し込まない限り電流は消費されませんので、使用時以外はプラグを抜いておくようにしてください。

## 6 Battery Check

エンドピンジャックにプラグを差し込んだ状態(ON)で、B-CHKボタンを押すとPTではチェックランプが点灯します。ランプが暗くなったなら、早めにバッテリーを交換してください。



## 7 Double Saddle



1-6弦のピッチを正確なものにするため考案されたのが、ダブルサドルです。プレーン弦とワウンド弦を個々にサポートすることで、シングルタイプに比べ、より自然なテンションを得ることができます。

## 8 Body

100シリーズでは機種によってディープタイプ(95mm)とスインタイプ(85mm)の2タイプのボディ厚を設定しています。



## 9 End-Pin Jack

コードのプラグを差し込む為のジャックをエンドピンと一体化。



## 10 Strap-Pin

300シリーズを除く全モデルにストラップピンを標準装備。

## ● PALATHETIC CONTROL SYSTEM ●

### PT CONTROL

#### TREBLE

高音部の音質補正に使用するコントロール。使い易いセンタークリック式になっています。

#### MIDDLE

中音部の音質補正に使用するコントロール。使い易いセンタークリック式になっています。

#### BASS

低音部の音質補正に使用するコントロール。使い易いセンタークリック式になっています。

#### EXCITER

このエキサイターコントロールは、中音域から高音域にかけての倍音を増減することが可能で、各トーンコントロールと併用する事により、さらにナチュラルでクリアなサウンドをクリエイトできます。

### NPT CONTROL

#### VOLUME

ワンタッチで飛び出すボリュームノブ。使用時以外はもう一度プッシュすれば、ノブはコントロールパネルにフラットにおさまります。



#### TREBLE

高音部の音質補正に使用するコントロール。使い易いスライドコントロールは従来より定評があります。

#### BASS

低音部の音質補正に使用するコントロール。TREBLEコントロールと併用して好みのサウンドをブレンドしてください。



#### FREQUENCY

TREBLEとBASSコントロールで創ったサウンドを、更にデリケートに調整したい周波数帯を80Hzから10,000Hzの間で設定できます。

#### LEVEL

FREQUENCYで設定した周波数帯を±16dBの範囲で強調、または減衰させます。

#### EQ-PASS SWITCH

スタジオやステージで接続する外部機器に応じて、プリアンプのイコライザーをバイパスする事が可能です。